

郷土の扉

The gateway to local history

田んぼに水が張られる6月。昔から人々の暮らしとともにあった田園風景は、多くの生き物を支えてきました。その一つが「コウノトリ」です。昨年11月、本市にも6羽のコウノトリが飛来し、大きな話題となりました。皆さんはコウノトリがどんな鳥か知っていますか。

赤ちゃんを運ぶ言い伝え
赤ちゃんを運んでくるとい言い伝



令和7年11月に霧島市に飛来した
6羽のコウノトリ(写真提供: 稲満一郎さん)

コウノトリ

えがあるのは、ヨーロッパなどに生息するシユバシコウ(ヨーロッパコウノトリ)のことです。国内で見られるコウノトリは、コウノトリ目コウノトリ科に属する大型の鳥です。体長は約110cm、翼を広げると約200cmにもなります。姿はタンチョウなどのツル類に似ていますが、羽は白と黒色、くちばしも黒色、足と目の周りは赤いことが特徴。河川や田んぼなどの開けた湿地で生活し、干潟にやってくることもあります。魚やカエル、トカゲ、ネズミ、昆虫などの小動物を食べます。主な繁殖地は極東ロシアや中国東北部で、中国南部などで越冬する渡り鳥です。国内には、越冬するために渡ってきたものや、すみ着いたもの(留鳥)がいました。江戸時代頃までは全国各地で見られました。乱獲や環境悪化により、昭和46(1971)年には兵庫県に残っていた野生最後の1羽が死亡し、日本からコウノトリは姿を消しました。

コウノトリは昭和28(1953)年に国の天然記念物、昭和31(1956)年には特別天然記念物に指定されました。また、種の保存法による国内希少野生動植物種に指定されており、現在、環

境省レッドリストの絶滅危惧ⅠB類(E N)となっています。

野生復帰への取り組み

国内最後の生息地となった兵庫県豊岡市などでは、野生絶滅前からコウノトリの保護や増殖についてさまざまな取り組みが行われてきました。平成11(1999)年に開園した「兵庫県立コウノトリの郷公園」では野生復帰事業が行われています。また、昭和60(1985)年に旧ソビエト連邦から譲り受けた6羽のコウノトリによって、平成元(1989)年に人工繁殖が成功。それ以降毎年順調に繁殖が続き、平成17(2005)年には最初の5羽が野外放鳥されました。放鳥されたコウノトリは自然繁殖が順調に進み、昨年には500羽を超えました。初放鳥から順調に繁殖が進んだことで、全国各地でコウノトリを見かける機会が増えています。

コウノトリを見かけたら

コウノトリは野鳥ですので、驚かせないように静かに見守りましょう。そして、コウノトリの野生の力が低下しないよう、餌を与えるのは絶対にやめましょう。

また、コウノトリには個体識別のための足環あしわが装着されています。足環は1羽ずつ色の組み合わせが異なります。

個体識別は学術研究や個体群管理に用いられ、コウノトリの行動範囲や寿命など、誰でも検索することができ、さまざまな情報が得られます。コウノトリを見かけた際には、足環を確認してみてください。

もし、けがをしたり死んでいるコウノトリを見つけた場合には、市役所までご連絡ください。コウノトリは文化財保護法や種の保存法で保護されているため、それぞれの規定に基づく対応が必要になります。

身近な野鳥へ

冒頭で紹介した6羽のコウノトリですが、兵庫県立コウノトリの郷公園へ問い合わせたところ、目撃情報が寄せられておらず、6羽の個体情報は分かりませんでした。本市へ飛来した理由については、コウノトリは繁殖年齢(約3歳)になるまでは良い餌場を求めて探索行動を行うため、その途中で本市へ立ち寄ったのではと考えられるそうです。コウノトリにも選ばれる、人と自然が共生するまちを目指したいですね。

(文責: 森)



コウノトリの目撃情報の提供先(兵庫県立コウノトリの郷公園)